

## 道南地域共創シンポジウム ～共に創る、道南の未来～

### 開催概要

- ◎日時：令和6年9月22日（日）13:00～15:30
- ◎会場：松前町ふれあい交流センター（松前町唐津51-1）
- ◎参加：約50名
- ◎主催：函館開発建設部、渡島総合振興局、松前町、奥尻町
- ◎プログラム

- 第9期北海道総合開発計画の紹介（函館開発建設部）
- 新たな「北海道総合計画」の紹介（渡島総合振興局）

#### ○基調講演

「人口減少時代における関係人口の創出と共創による地域づくり」  
一般社団法人北海道総合研究調査会 理事長 五十嵐 智嘉子 氏

#### ○パネルディスカッション 「共に創る、道南の未来」

☆コーディネーター 五十嵐 智嘉子 氏

☆パネリスト（五十音順）  
東急不動産株式会社 松前事務所長 関口 冬樹 氏  
ひやま漁業協同組合青年部奥尻支部 川瀬 美弘 氏  
縄文DOHNANプロジェクト顧問 山田 かおり 氏  
（山田総合設計株式会社 地域ソリューション部課長）



基調講演 五十嵐氏



パネルディスカッション



関口氏



川瀬氏



山田氏



会場との意見交換

### 主な発言内容

#### 【基調講演】

- 「共創」を進める前提として、関わる人たちの「共感」が大きな要素になる。
- 人口減少を食い止めるには一定の時間がかかるため、松前町のスマートシュリンク（SX）ビジョンのように、今よりも小さな人口規模でも豊かに暮らせる社会を創ることは必要。
- 地域課題とは何か。課題とは「なりたい姿」と「現状」のギャップ。このギャップを埋めるのが課題解決。困りごとがそのまま課題にはならない。
- 人口減少時代の地域づくりには、地域住民が自分ごととして地域の課題を語り合うこと、自分たちだけではできないことに外の力を借りることが大事。また、子どもたちによる探求を支援し、大人が背中を見せると、子どもたちが「うちのまちの大人たちもやるな」と思い、地域に戻るきっかけになる。
- シビックプライドは愛郷心にとどまらず、自分が関わっていないと生まれにくい地域の誇り。それによって共感が生まれ、一緒にやろうという人たちが内外から現れ、手を組むことができるようになるのではないかと。

#### 【パネルディスカッション】

- ＜地域のポテンシャルと共創＞
- 松前には、歴史やまぐろ、書道、桜など良い素材はたくさんあるが、それをうまく発信できていないと思う。松前だけの話ではない。地域にそれをうまく磨ける人、発信できる人がもっといると良い。（関口氏）
  - 島外から来てくれる子ども達に、少しでも島の良さを見せたい。そして感じた魅力を伝えてもらいたい。簡単な漁業体験や食という過程を通じて、子ども達に島の魅力を感じてもらえる取組を続けていきたい。（川瀬氏）
  - 地域を誇りに思う子ども達が次世代の子ども達に伝えていく仕組みを作りたい。地域外に出る子は多いが、いったん外に出ても戻ってきたいと思える地域づくりをしたい。そのためには、大人や企業のサポートができるような体制づくりも必要。（山田氏）
- ＜参加者に向けたメッセージ＞
- まちづくりは難しいと考える人が多いと思うが、地元のイベントやお祭りに参加してみるとか、ゴミ拾いをしてみるとか、自分ができるところから地域に関わることでまちづくりに繋がる。（山田氏）
  - 自分たちの島での取組が共に創るという今回のコンセプトそのもの。道南地区全体に波及できれば良いと思う。（川瀬氏）
  - まちづくりのプロジェクトを通じて、子ども達が価値ある体験をし、将来松前に戻ってきたいと思えるような仕掛けを作っていきたい。そして、大人も、自分の子どもだけではなく、地域として松前の子どもを育てていけるような、そんな環境になっていけばと思う。（関口氏）

